

事業者 一般社団法人 楽育楽家  
事業所名 アイラック

配布 2022年3月  
公表 2022年3月31日

配布数10 回収数10  
回答率 100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	工夫している点や課題 今後の改善内容・改善目標など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	8	2	0	0	ブレイルーム(遊び)と課題、おやつ部屋が別れている事で、活動のメリハリがある点が良いと思います。
	②	職員の配置数は適切であるか	7	3	0	0	一人一人のスタッフが、役割を持って児童や保護者に対応出来ていると思います。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	3	6	1	0	写真付きの予定表の提示、課題の量など、児童に分かりやすく提示され、工夫されていると思います。段差の解消が難しい。段差・階段等があるが、対象児は知的障がい・発達障がい・精神障がいとなっている
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	7	3	0	0	コロナ感染拡大防止も併せて、冷暖房、空調の調節、また玩具や課題の消毒など細やかに行っていると思います。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	7	3	0	0	療育前に療育の目標の確認や療育後の振り返りなど、スタッフ間で確認が出来ている。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	10	0	0	0	保護者からの事業所アンケートを受けて、改善点など努力している。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	7	3	0	0	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	2	6	2	0	第三者評価未実施
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	9	1	0	0	月1回の法人内合同研修がある。毎月一度、保護者、職員向けの研修を開催している。毎月の研修や、児発管からのSV等あり。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	9	1	0	0	
	⑪	子どもの適応行動の状況を因るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	8	2	0	0	適宜、フォーマルアセスメント実施。WISC-IV、WPPSIIII、遠城寺式乳幼児分析的発達検査法、MEPAを備え、必要に応じて使用している
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	10	0	0	0	児童一人一人、そして保護者一人一人に必要な支援を細やかに対応している。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	10	0	0	0	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	5	5	0	0	

	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	8	2	0	0	固定的なプログラムの必要性がある場合は、意図的に固定化している。 児童の成長や、またその時の気候に合わせて活動に
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成しているか	8	2	0	0	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	10	0	0	0	スタッフ一人一人が、役割を持って対応している。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	6	4	0	0	その日の一人一人の児童、保護者の様子や成長など話し合い、スタッフ間で共有している。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	10	0	0	0	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	10	0	0	0	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	10	0	0	0	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	9	1	0	0	児童、保護者の様子を見て、必要な関係機関と連携を取っている。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	-	-	-	-	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	-	-	-	-	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	10	0	0	0	何か有れば、すぐに関係機関と連絡を取って対応している。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	9	1	0	0	就学前の児童、保護者の為に、関係のある学校なども対応している。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	5	5	0	0	
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	4	5	0	
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	5	4	1	0	
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	10	0	0	0	保護者と児童の発達や課題について、療育中や時間外でも細やかな対応をしている。 事業所内相談支援加算Ⅰを使うなどし、適時対応している。
㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	6	4	0	0	月1回、保護者の方向けの勉強会を実施している(希望制)。 児童とお母様以外のご家族も一緒に療育を行っている。 毎月勉強会を実施	

保護者への説明責任等	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	10	0	0	0	
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	10	0	0	0	
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	9	1	0	0	保護者からの相談もすぐに対応し、とても細やかな対応をしている。 事業所内相談支援加算Ⅰを使うなどし、適時対応している。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	0	6	4	0	親子参加のグループ療育のため、同じグループの保護者の方で自然なつながりができている。月1回の勉強会や不定期の公開講座・イベント等でもつながりができている。 おやこ通所の為、毎回、保護者たちが交流する時間がある。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	10	0	0	0	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	10	0	0	0	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意しているか	10	0	0	0	
	③⑨	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	10	0	0	0	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1	5	4	0	
	非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	7	3	0	0
④②		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	4	5	1	0	
④③		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	10	0	0	0	一人一人に聞き取り、対応をしっかりとしている。
④④		食物アレルギーのある子どもについて、示書に基づく対応がされているか 医師の指示に基づく対応がされているか	7	2	1	0	指示書はいただいているが、保護者の方へ具体的な食物を確認している。
④⑤		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	8	2	0	0	職員会議の中でも、スタッフみんなで共有し、改善を図っている。 事例集は作成していないが、日々の打ち合わせで確認している。 運営会議のテーマのひとつとして、1か月分のヒヤリハットを議案書に掲載し、共有を図っている。
④⑥		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6	4	0	0	
④⑦		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	6	4	0	0	

◎ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

## 事業所より

全スタッフが「はい」と回答した設問もある一方で、意見の分かれたものもありました。意見の分かれた、あるいは「はい」の少なかった幾つかの項目について検討を致しました。

③ 事業所内、事業所敷地内においては、段差や階段などがあり、バリアフリー化はできておりません。主たるサービスの対象児を、知的障がい児・発達障がい児として開所をしていること、賃貸物件のため改築が難しいこと、等が理由ではありますが、危険な場所が無いよう、これからも施設整備については丁寧に行っていきたいと思えます。

⑤⑭ これらについては、児発管・常勤スタッフが取り組む比重が高く、非常勤スタッフまで含めた全職員が参画できていない可能性があります。勤務曜日等の理由において参画できなかった場合にも、適切に共有するための改善を行っていきます。

⑱ グループ療育終了後、すぐに放課後デイのお子さんがいらっしゃることもあり、支援終了後の打ち合わせが別の日になったり、次の療育日の支援開始前打ち合わせにて前回の振り返りも同時に行うことが多くあります。全体で共有し、それを次の支援で活かせるよう、共有の仕方について、今一度検討を致します。

⑳ 実際には非常に多くの専門機関との連携や自立支援協議会への参加を行っておりますが、情報を職員全体で共有できていないのではないかと考えております。どのスタッフが出席したどの会議が、何に当たり、どのような内容であったか、どのような助言を受け連携を行ったか、全スタッフが参加する会議にて、丁寧に共有していきたいと思えます。

全スタッフが情報共有をすることの難しさは、常日頃より感じていましたが、今回の結果を見て、改めてその認識をいたしました。

非常勤スタッフも多いため、全員で顔を合わせて会議ができるのは、月2回程度です。その中で、必要性の高いものから共有・意見交換をし、平行して、毎日の朝の打ち合わせと事務日誌において情報共有を図っていますが、今回の自己評価で、全職員に十分に共通理解ができていない部分があることが見えたと思えます。

管理者・児発管ができていたつもりになっていた部分をあぶり出し、改善に向けた策を実施してまいりたいと思えます。